



角野さんがバスケットボールを始めたのは、小学4年生の頃。二つ上の兄の友人から誘われたのがきっかけです。それまで習っていたサッカーが思うように上達せず、競技の面白さが見いだせないでいた頃でした。「同級生よりも背が高かったこともあり、たくさん点が取れてうれしかった」と始めた時を振り返ります。練習を重ねてできることが増えると、さらに楽しさを

ボールを床に弾ませながらコートを駆け、大きな体を伸ばし放たれたシュートは高さ約3メートルのゴールへ吸い込まれていきます。プロバスケットボール選手の手角野亮伍さんは、10月のシーズン開幕に向けて、チームメートとの連携や戦術などを確かめています。

成長への期待が原動力

バスケットボール選手
角野亮伍さん(27)

覚えた角野さん。「もつと上手
 くなり、やるからには世界を目
 指したい」と真剣に取り組むよ
 うになりました。

トップを目指して

学校から帰ると暗くなるまでボールを触ったり、競技経験者の父や兄と練習したりと、バスケットボール漬けの日々を送った角野さん「バスケが好きだったから、苦だと思ったことはな」と話します。努力が実を結び、15歳で16歳以下の代表や日代表候補に選出されました。

4年目のシーズンを迎える角野さんは、練習中から仲間に声を掛け、いいプレーが出ればハイタッチをするなどチームの雰囲気づくりに力を注いでいます。「今でも成長を感じています。技術やチーム力、人間性など、成長への胸の高鳴りは、競技を始めた頃と変わりません。目標は「このチームでの日本一」。人一倍強い思いを胸に、悲願達成へ向けた角野さんの挑戦が幕を開けます。

われ攻撃だけでなく守りや連携が重要な団体競技の難しさを痛感。個人の成績に加え、よりチームの勝利へのこだわりが強くなりました。「個人でもチームでも負けたくない」と悔しい思いを力に変え、高校卒業後、本場アメリカへの留学を経て、24歳でプロ入りを果たしました。

原点の気持ちを大切に

プロフィール
1997年生まれ。厚木第二小・厚木中学校校出身。藤枝明誠高校（静岡県）・サザンニューハンプシャー大学（アメリカ）卒業。15歳で初めて日本代表候補に選出。現在、Bリーグ・シーホース三河に所属するプロバスケットボール選手。



市内の教室で「競争心を持ち楽しむことが、子どもたちの成長に必要不可欠だ」と語る。

プロフィール
1975年生まれ。相川小・東名中学校・厚木商業高校出身。トリノ五輪から3大会連続でパラリンピックに出場。北京五輪ではスーパー複合(座位)4位他に入賞。2022年厚木市民功労表彰受賞。

いました。

スポーツと一緒に楽しむ

開発者の
チェアス

のスーパー複合（座位）4位に入賞しました。

田中さんがチエアスキーと出合ったのは22歳の時。生まれ持った病気の影響で幼い頃に両足の膝から下を切断し、義足の調整のため七沢の神奈川リハビリに通院していました。診察中、専門学校のスキー教室に行けなかったことを話すと、義肢装具士が院内の工芸室で開発したチエアスキーを見せてくれました。

こんなものがあるのかと思いい、その年の冬に初めて雪上でスキーを体験。友達を誘い、毎週末ゲレンデに通いました。「最初はバランスが取れず倒れてばかりだった。でも何より友達と一緒に行くスキーが楽しくてしょうがなかった」と笑顔を見せます。小学生の頃から体育の授業は見学で、「みんなと一緒にやりにくくて懂れていた」とこぼす田中さん。高校では陸上部

スキーを続けるうちに日本
チェアスキー協会から声が掛か
り、本格的な練習を開始。広い
コースを独占できる楽しさを知
り、スキーに魅せられていきま
した。2006年、初めてパラ
リンピックへ出た際は「出場で
きることに舞い上がっていて、
友だちや家族が喜んでくれるこ
とがうれしかった」と振り返り
ます。何度も大会を経験するう
ちにメダリストのレベルの高さ
を目の当たりにし、同じ練習で
は勝てないと日本のチームを離
れ、アメリカやニュージーラン
ドなど海外で練習を重ねました。

「いろんな国の選手がいけれど、スキーがしたい気持ち共有できたから、言葉が違っても伝えられた」。目指す道筋を見つけ大きく成長した田中さん。スポーツでつながる輪の中にいることを実感した瞬間でした。

「北京の滑走前に、スタートを知らせるコール音がブツブツと聞こえた時、とても落ち着いた気持ちだった」。自分を応援してくる人がこんなに出たのかと実感し、持てる力を出したかった4度目のパラリンピックス。『みんなと一緒にスポーツを楽しむこと』を求め続けた田中さんだからこそ見えた景色がそこにありました。

ことと話す木島さん。「陸上を始めてから大きな故障がなく走っていて、毎日の積み重ねで少しずつ成長してきた。今は走っている際に足を痛めないよう、足元にも気をつけている」と話します。

目の前の目標に向かって

順調に成績を残した木島さんですが、大学で陸上を続けるのか悩んだ時期がありました。「今も続けているのは高校の顧問のおかげ。『大学でも続けてほしい』と説得してくれたことに感謝して」と振り返ります。

大学の練習は1日で30〜40分。走ることもあり、高校に比べて練習量が増えましたが「今でも走るのは楽しい。何が楽しいのかは、まだ分からないけど」と笑顔を見せます。走る楽しさを胸に秘める木島さんは、箱根駅伝で走る目標に向かって今日も走り続けます。

プロフィール
2004年生まれ。戸室小・南毛利中学校出身。相洋高校（小田原市）卒業。20年には高校駅伝神奈川県大会総合優勝や全国都道府県対抗男子駅伝競走大会の県代表エントリーマンバーに選出。5000mの自己ベストは14分22秒76。

今年1月のおつき駅伝では南毛利Aチームのアンカーを務めて1位でゴール

雪上を駆け抜ける田中さん

過去に広報あつぎで取り上げた選手を紹介します。



野球解説者
元プロ野球選手
多村 仁志さん

野球
井上 広輝さん
竹下 瑛広さん
田中 広輔さん
田中 俊太さん
(50音順)



東京五輪金メダリスト
元ソフトボール選手
山田 恵里さん



プロボディボーダー
我孫子 咲良さん

サッカー
岡崎 亮平さん
真田 幸太さん
ジャーメイン良さん
田中 桃子さん
茂庭 照幸さん
(50音順)

サッカ－

永里 亜紗乃さん(左から)
源気さん 優季さん

厚木市ゆかりのスポーツ選手



北京五輪出場
スノーボード
大塚 健さん

バスケットボール
鈴木 百萌子さん
テニス
青山 修子さん
ラグビー
中丸 彩衣さん

選手を応援しよう 問スポーツ推進課 ☎225-2531

全国大会等出場奨励金

対 象 公共団体などが主催の全国・国際大会に出場する市内在住の個人または市内で活動する団体

助成額 個人 国内=5000円、国外=2~5万円

団体 国内=1~5万円、国外=4~10万円
※大会のレベルや団体人数によって異なる

申請書と必要書類を直接またはEメールで、スポーツ推進課 ☐8850@city.atsugi.kanagawa.jpへ。



詳細はこちら

市出身のス
ーツ選手の情
報を市HPで公開。



詳細はこちら